

## 4 保存活用の基本方針

### (1) 保存活用の基本的方向性

両施設は、赤レンガ庁舎から繋がる北三条通に面し、周辺地区は、開拓使が札幌の工業振興のために農産物を加工販売する官営工場を次々と建設した「札幌の産業のはじまりの地」であり、隣接する苗穂地区においても豊平川の豊かな伏流水や交通の利便性によって、北海道に根ざした企業の工場が多数集積した「産業のまち」として発展してきました。

今も、この時代に建てられた建造物や、北海道の産業を支えてきた歴史を伝える記念館・博物館などが点在しており、例えば隣接する札幌麦酒醸造場をリノベーションした複合商業施設である「サッポロファクトリー」をはじめ、北三条通を挟んで戦後復興期にラムネ工場として建設された「岩佐ビル」、明治23年に札幌製糖工場として建築され後にビール工場に改修された「サッポロビール博物館」、「北海道鉄道技術館」、「福山醸造」などが存在します。

両施設はこれらの地域の特色を情報発信する案内窓口としての役割を果たす拠点施設となり得るものであると同時に、時計台や豊平館など札幌市内に点在する文化財などと相互情報発信することにより歴史的資産を活かした観光都市としての広がりを生み出すことができ得るものと考えます。

また、創成東地区は都心にありながら開発余地が今日まで多く残され、近年は人口の大幅な増加など、まちづくりの促進が期待されている中で、「職」・「住」・「遊」近接の歩いて暮らせる創造性豊かなまちづくりを推進するに当たって、地域住民が集い、親しむ地域交流拠点として安定的・継続的に利用される施設ともなり得るものと考えます。

さらに、観光や地域交流の目的のために訪れる人々が、歴史的情報、雰囲気に触れながら休憩、歓談などを行えるような、歴史的な空間を活かした事業を展開することにより、施設の魅力・集客アップに繋げるとともに、収益性の向上にも寄与でき得るものと考えます。

上述の内容を踏まえ、両施設は、歴史的価値を継承することを踏まえ、観光振興、地域活性化に寄与する施設とすることにより、多くの集客を図る施設とすべく以下に示すとおり新たな活用を目指していくものとします。

なお、その際、観光（WiFi 導入・多言語対応など）やまちづくり（創成東地区におけるまちづくりの取組みとの連携など）の視点を取り入れ、施設の特性を活かした機能や雰囲気を統一的に持たせることを前提とします。

#### ア 旧永山武四郎邸

旧永山武四郎邸は北海道指定文化財であることから、保存を第一とし、原則現状に準じた観覧施設としたうえで、弾力的な活用方法についても検討します。

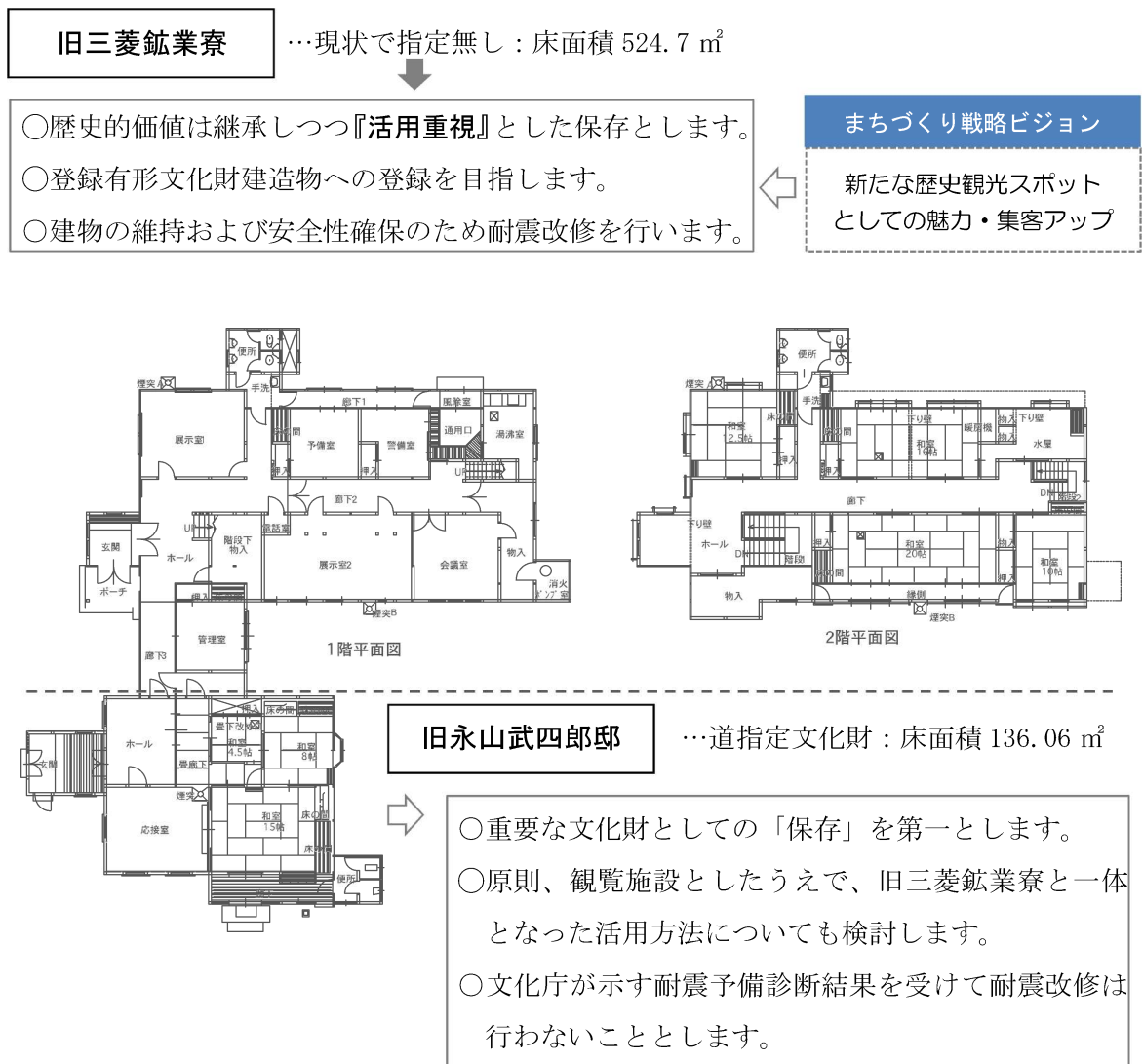
なお、保存に当たっては、北海道指定文化財であることから、文化庁が示す「耐震予備

診断」により耐震改修の必要性を判断する必要がありましたが、診断の結果「耐震性をおおむね確保しているとみなされる」と判断されたこと、また、平成 17 年度に保存修理工事を行っていることなども鑑み、必要に応じて部分的な修理工事を実施することとします。

## イ 旧三菱鉱業寮

建築されて以来大規模な修理工事が一度もなされておらず、今後積極的な集客交流スペースとしての活用を図っていくに当たって、安全性の確保のため、耐震改修を含む全面的な保存修理工事を実施することとします。ただし、歴史的価値を確立するために、改修後に国登録有形文化財建造物に登録申請を行うことを前提として、歴史的価値は継承していくことを前提とした保存修理を行い、新たな活用を行うこととします。

なお、公園内に設置されている施設であることから、樹木及び植栽等にも配慮しながら改修計画について検討を行うこととします。



## (2) 活用の方針

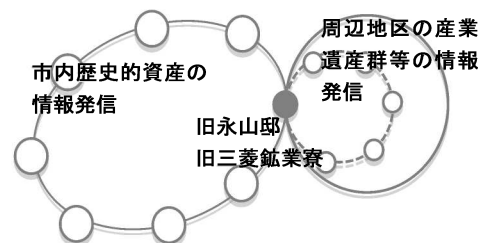
### ア 旧永山武四郎邸

原則として現状に準じた公開施設とし、旧三菱鉱業寮と併せて弾力的に活用します。

### イ 旧三菱鉱業寮

#### (ア) 市内及び周辺地区の歴史・文化資産のインフォメーション機能

- 魅力あるまちづくりと観光振興の一体推進を図るため、市内に点在する時計台や豊平館などの歴史的資産と相互情報発信することが必要と考えます。
- 現在も多く点在している周辺地区の歴史を伝える産業遺産等について情報発信することが必要と考えます。
- 全市的歴史・文化資産の情報発信拠点の一つとして、また、周辺地区の歴史的魅力発信・連携のための窓口的な拠点施設として位置づけ、地域の歴史・文化を活かしたまちづくりに寄与する施設として活用することが必要と考えます。



#### 市内・周辺地区の歴史的資産などに関するインフォメーション機能を整備します

- 市内の歴史・文化資産の情報発信の拠点の一つとしての位置付け
- 札幌・北海道の産業を支えてきた地区の歴史を伝える情報発信
- 北三条通の歴史性・邸宅が建設された当時のまちの姿など地域の歴史発信
- 永山武四郎、三菱鉱業に関連する産業・文化史の情報発信

#### (イ) 集客と地域の魅力向上につながる事業展開

- 新たな歴史観光文化スポットとしての魅力アップと集客を図るため、市民や観光客が訪れたいような、新たな集客機能を導入することが必要と考えます。
- 新たな事業展開にあたっては、隣接する商業施設や苗穂地区のまちづくりの取組との連携により、地域の活性化などに繋がる事業内容とすることが必要と考えます。

#### 歴史的な時間や空間を体感できる集客機能を導入します

- 例：コーヒーや軽食を提供できるカフェなど

#### (ウ) 多目的スペースとしての機能維持・向上

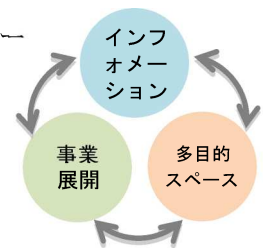
- 写真撮影など市民に活用されている現状利用への配慮が必要と考えます。
- 「地域との親密感」を阻害することなく、施設の特性を活かした様々な目的のため場とすることが必要と考えます。

#### 写真撮影・ギャラリー・催し物（お茶・お花など）等を行える貸室として活用します

- 有料貸スペースや無料で利用できるスペースを設け、収益性の向上に配慮するとともに、市民利用や交流空間として活用

## ■上記機能を満たすための活用方針

地域の歴史・文化を活かしたまちづくりに寄与する「インフォメーション機能」、集客と魅力アップのための「事業展開」、写真撮影・会合・ギャラリー・催し物などを開催するための「多目的スペース」を、連携の中でそれぞれが補完しあう三位一体のものとして展開していくこととします。



### (3) 管理運営の方針

現在は札幌市が清掃警備を委託し、観覧施設として管理運営を行っています。今後は、指定管理者による管理、目的外の使用許可、貸付など複数の管理運営方法を視野に入れ、施設の魅力アップと集客を図るために最も適切な方法について検討していくこととします。

### (4) スケジュール概要

- ・平成 27 年度：基本実施設計
- ・平成 28-29 年度：保存活用工事（休館）
- ・平成 30 年度：リニューアルオープン